

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	「(仮称)道の駅姫路」整備検討懇話会(第3回)
2 開催日時	令和3年11月18日(木曜日) 15時00分～17時00分
3 開催場所	姫路市役所 10階 大会議室
4 出席者又は欠席者名	<p>(出席者) 「(仮称)道の駅姫路」整備検討懇話会委員11名 (欠席者2名)</p> <p>オブザーバー 5名</p> <p>(事務局) 商工労働部長、道の駅推進室長、同係長、同主事 業務委託業者 5名</p>
5 傍聴の可否及び傍聴人数	<p>傍聴可(5人)</p> <p>傍聴人数:一般 2人、報道関係者 1人</p>
6 議事	<p>(議事) 「(仮称)道の駅姫路」基本計画パブリック・コメント案について</p> <p>(報告) 道の駅第3ステージについて(情報提供)</p>
7 会議の要点記録	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員紹介</p> <p>・各自自己紹介を行う。</p> <p>3. 議事 「(仮称)道の駅姫路」基本計画パブリック・コメント案について</p>

事務局	【資料1 『(仮称) 道の駅姫路」基本計画パブリック・コメント案』に基づき説明】
座長	・先に報告事項を説明していただき、その後、議事事項とあわせて意見交換をしたい。
	4. 報告 道の駅第3ステージについて (情報提供)
オブザーバー	【資料2 『「道の駅第3ステージ」本年度の進め方について』、資料3 『「防災道の駅」記者発表資料』に基づき説明】
座長	・報告のあった国の最先端の動きも参考にしつつ、基本計画パブリック・コメント案について、広くご意見願う。
委員	・道の駅が本当に必要なのか、整備後も継続して運営していけるのかが一番知りたいことだったが、第2回懇話会で要望した事業費や管理費が基本計画で提示されており、評価できる。引き続き、持続的に経営可能な施設を目指し、収支を明らかにしたうえで市民が納得できる形で検討を進めてほしい。
事務局	・運営は、民間のノウハウを活かし、管理運営費を抑えながら持続的に行える方法を検討している。 ・2章には市民の皆様から頂いたアイデアを詰め込んでおり、今後運営を担う事業者に市民の思いを伝えていきたいと考えている。
委員	・第2章では多様なターゲットにヒアリングされており、多くの意見が良くまとめられていると感じた。 ・事業対象地周辺の国道372号は混雑しやすく、渋滞を懸念する人もいる。進入路の検討と併せ、渋滞対策の方針をもう少し強く示す必要がある。 ・売上高は約6億1,400万円、施設関係の維持管理費は約2億6,600万円と試算しているが、経費を整理したうえでシミュレーションを行う必要があるのではないか。
事務局	・渋滞対策については、警察とも相談し、検討したい。 ・売上高は来場者数をベースとした試算や類似施設の参考事例により、約6億円は可能だと考えている。維持管理費は、経費を分かりやすく表示して、今後、精査していく。
オブザーバー	・国道372号は、これまでも信号の時間調整などの対策をとっているが、道路容量の限界もあり渋滞を解消できていない。道の駅の建設に併せた周辺道路の整備や道路案内で、通過する車を分散させる方法なども検討してもらいたい。
委員	・姫路城へのパークアンドライドも検討してはどうか。
委員	・コンセプトに「播磨の実力(みりょく)」とあるが、ここに込めた思いは何か。
事務局	・播磨の中心に位置する姫路で、播磨の実力ある人・物・事の魅力が沢山あることをア

	<p>ピールしたいという思いがある。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット像にサイクリング、ツーリング客を掲げている一方で、規模算定では自動二輪用駐車ますが4台となっているが、足りるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・計算上駐車ます数は4台となるが、4台に限定しているのではなく、他の駐車ますとの兼用など運用面でのカバーも考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・懇話会やワーキングなどでの意見は、計画に反映されていると感じた。地元からの期待も高く、わくわくする道の駅を考えていきたい。 ・コロナで社会が大きく変わり、今後はニューノーマルへの対応が求められると考える。デジタル化構想なども進んでいく中、可能性を広げられる「余白」を残しておいてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「行きたくなる」道の駅ではなく、「また行きたくなる」道の駅をつくることが大前提。渋滞を心配することなくマイカーが利用できるように、小川橋や姫路城を含む一体的な交通問題の対策が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路駅の物産コーナーにもあまり人がいない状況で、試算した物販の年間売上高4億6千万円は本当に見込めるのか。物を作れば売れるという時代ではない。試算した売上を達成するためには、そこにしかないものや買いたくなるアイデアを取り入れる必要がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高は「新たな道の駅整備における民間活力活用のための検討調査」報告書の類似事例を基に試算したもの。 ・姫路には埋もれている魅力がたくさんあり、活かし方が重要だと考えている。現在、官民連携手法を活用して、姫路の魅力を引き出してくれる事業者も探しているところである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路の物産販売が苦戦しているのは事実である。しかし、西播磨にはプロ目線で見ても日本一と言われている産品もあり、魅力を伝えきれていないと感じる。目の前にある良いものを掘り出し、PRしていくことが道の駅の繁栄につながると考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地場の米を使った日本酒は、贈り物として人気がある。また、花きの需要も高く、特に多肉植物は遠方から若い方が買いに来ることもある。「花田」、「花市場」といったものを、ストーリーに組み込んではどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・売上倍増を目指し、一緒にできる方法を考えていきたい。
ワザバー	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅は日本人のほとんどが行ったことがある魅力施設であり、姫路市民は道の駅ができることを期待しているだろう。パブコメでは、関心のある人の意見をできるだけ

	<p>多く集める手法を検討してほしい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様への声かけに声をかけていただくことや、サウンディング型市場調査の参加企業にも声掛けをするなど、パブコメの意見収集は様々な方法で行いたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 地元住民からは、姫路の道路整備は他市町村と比べて遅れているという声が挙がり、城南線を花田御着停車場線まで繋ぎたいと考えている。 道の駅は最初から 100%の施設を目指すのではなく、みんなで努力して育てていくことが重要だと考えている。みんなでアイデアを出し合いながら盛り上げていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の運営では、人材確保と財源確保は重要課題である。民間企業に協力していただきながら、スムーズな運営ができる組織体制の検討が必要と考える。 渋滞対策として、姫路東 IC から花田 IC への誘導を検討してはどうか。 SDGs は考慮されているが、自然エネルギー活用に対する姿勢を強調すべき。 姫路は花の生産地であり、花のブランド化も重要と考える。
ワーカー	<ul style="list-style-type: none"> パブコメを募集するにあたり、造成計画や施設配置計画などは今後の協議により変更する可能性があることを表記するなど、計画が独り歩きしないよう考慮すべき。
座長	<ul style="list-style-type: none"> 計画段階のものが独り歩きすることはよくあるので、注意すべきである。 施設計画の大前提となる姫路らしさや新しい部分は何なのかが分かりにくく、計画全体を貫く基本的な考え方を示す必要があるのではないかと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転を考慮した駐車場整備やデジタル化への対応等は、これからの道の駅を考える中で強調していくべきである。
座長	<ul style="list-style-type: none"> 時代に沿った新しい生活様式を見越した中で、姫路らしいものや新しいものなど道の駅姫路が目指すものを明確に意思表示できるとよいと考える。
	<p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4回懇話会 2月22日(火)10時～ 姫路市役所で開催予定。
	<p>6. 閉会</p>